

1/26
(金)

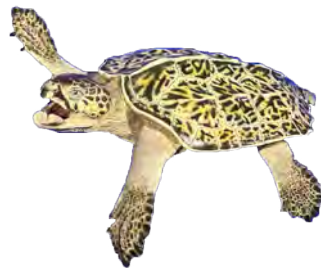
日本最古のウミガメ

サツマウミガメの化石発見

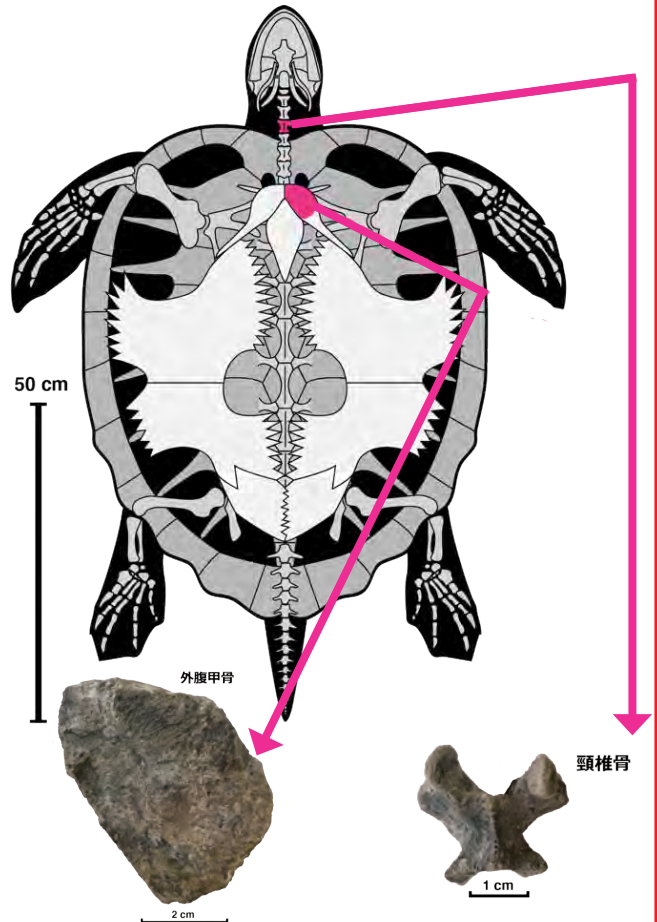
令和2年11月に、化石研究家の宇都宮聡氏によって、獅子島南西部に分布する白亜紀の地層から骨化石を含む石灰質の団塊（ノジュール）中から骨化石が発見され、東京都市大学の中島保寿准教授による研究の結果、日本（東アジア）最古（約1億年前）のウミガメ化石と判明し、令和6年1月26日開催の日本古生物学会で発表されました。

ウミガメ化石は日本国内では北海道や岩手県久慈市、兵庫県（淡路島）などに分布する白亜紀層から主に発見されていますが、8500万年前よりも古い化石記録はまれであり、約1億年前の地層からの発見は、日本（東アジア）最古の記録となります。この発見は、ウミガメが全世界に分布を広げた過程を探る上で大変重要な発見と言えます。

研究チームは今回発見されたウミガメの化石に発見地である鹿児島県の旧名である「薩摩」から「サツمامカシウミガメ」という呼称を与えました。



クリーニングされたサツمامカシウミガメの化石



ま
ち
の
話
題



1/26
(金)

長島の子表彰式

長所を褒めて伸ばす

1月26日、長島の子表彰式が町文化ホールで開催されました。これは、児童生徒の優れた長所を発見し表彰することで、心身ともに健全な子どもを地域で育てることを目的としています。

今年は町内の小学校6年生80人と中学生1人に賞状とメダル、記念品が贈られ、川添町長が「皆さんは長島町の将来を担う大切な宝。素晴らしい個性を伸ばして、自信をもってそれぞれの夢を実現してほしい」とあいさつしました。

受賞者を代表して馬場颯汰君（伊唐小6年）が「育ててくれた長島にいつか恩返しができるようにこれからも頑張っていきたい。本日は表彰していただきありがとうございます」とお礼の言葉を述べました。

このほか、琉球國祭り太鼓（鹿児島支部）の演舞が披露され、受賞者を祝いました。

式のなかでは、アメリカ・メジャーリーグで活躍する大谷翔平選手から寄贈されたグローブの贈呈式が行われ、子どもたちは、世間をにぎわしている話題のグローブに目を輝かせていました。

賞状とメダルを受け取る児童



目を輝かせてグローブを受け取る児童

